

秋冷ニ相催候処益御家内様御勇

健ニ被入目出度奉南賀候ニ小生義
無事働キ居御休神被下度候扱

おみね義なにととも。申事無之候且又
私よなる。しやわせ。のわるい物は。よ
にあろかト。思江ば。なすけない毎
日人の。なまむ。といづは。なごころま
す。又残りし。小共は。ぬぐふごころ

にあろヲト。思江は。夜はねられぬ。
こんな。しらいらい事ハ。よいあるヲかト

我身ヲしらみ升。たと江。どヲなら
ても。内ニ。おねば。いへしん。江。米
国江。きたので。おみねヲ。いらした。

ト思江ば。我も。いける。そいら
は。しませぬト。思江共。残りし

小共の事ヲ。思ひ又はあヲ。く。
いしばり。きヲトシ。なおし。いて升
私も。今かいら。候は金もなし。先
ニケ年はしんぼヲ致そヲト。思ひ
升。けれ共。小共の。つ。い。お。い。よ。れ。は
道中金ヲ。もけ次第かいら升
何卒く。此手紙着次第内の

小共の事ヲ。御きかせ。被下度候
私かいるまれば。甚々申兼候共

本家の母様ニ私方江入こみお世話

ニ預り度此段はけて御頼上候也

私は甚しよの御頼何卒く。母様

小共ニ。ちんヲ。や。り。そ。だ。て。被。下。度。候

又お安ニも。申付。小共ヲ大事

ニ致ス。よ。お。に。申。付。被。下。度。候

私は丸壹ケ年おれはニ本金

二百円は。も。け。升。よ。ん。て。い。い。し。ま

つおせいでもかもはぬ是も

お安ニ申付。ずいぶん小共ニは

ちんやるよおに。申付被下度候

猶又よおしん。又火のよおじんも

きお付る。よおに。申付被下度候

且又万々御世話預り万々御礼

申上候扱此返事早速致ヌは

づニ候共。当年は。主人ニは。働キ

すくなし故五十里程。わきの。

さへくら。めん。ドラ。ト。う。ひ。と。い。じ。ん。

江。働キ参りそれ故返事。おそ

なり候平ニ御海恕被下度候猶

四十九日。又はしやげ。ヲ。づ。い。ふ。ん。し

まつヲ。せ。ず。た。い。が。い。ニ。致。し。被。下。度

尤はか石は本家の父様ト同

事よおに致しかいみよお。私ノト

おみねのト両人のきり付被下度候

扱金義は私取金は只今百円
有之候主人ちくれぬ故送る事。で
きずいくらおそなり候共吉
ケ月たてば。くれ升。くれ次第
早速送り升此事御安心被下度候
猶々留守中は此上乍宜敷奉
御頼候

九月廿一日

新宅

本家様